

生活の中の科学の不思議 (年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子
amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2011/10/23

一ほほえましい高々年

髪を左右を後ろで留めて、黒髪を肩までたらしした同世代らしき女性が犬を連れて向こうから歩いてくる。細身でスマートな長身の体にフィットした黒のパンツスーツに、短い茶色のニットのベストがおしゃれでとても似合っている。薄化粧をしたその女性は擦れ違い様、私の方を見て微笑んでくれた。笑顔がさらに美しい。同年代でこんなに美しい女性に会うとなぜか誇らしい。

前方からスクーターに乗って高々年の夫婦が横を通り過ぎた。帽子を被った小太りの奥さんは両手でしっかりとご主人の体につかまっている。ご主人は目的地を目指した頼もしい顔つきでスクーターを走らせている。二人そろってどこにいくのだろうか。三人の高々年のおかげでもう一人の高々年は足取り軽くウォーキングを続けられた。

2011/12

便利なアイデア商品が数多く出回っている。それにしても、役立っている2、3の商品はどうしてこのような効果が現われるのか、科学者ならどうってことない、当然のメカニズムでときあかせるのだろうが、科学に弱い者には驚異のできごとだ。これらのものさんたちに普段よく助けられている。

*シールはがし*衣類のしみとり(お肌に使えたらノーベル賞もの)*茶渋やレンジの焦げが取れる真っ白のスポンジ*鋏の代わりをするゴムスティック*つながらなくなったインターネットがモデムの電源コンセントを入れ直すだけで正常に戻る*カチャンと小さなレバーを押すだけでどんな針目にも糸を通す道具*壊れた家具や食器、なんでも一瞬のうちに元どおりにくっ付けるのり。

2011/12/

墓地横の人一人がやっと通れるほど細い緩やかな坂道と畑と民家の中を通る道がT字路にぶつかった地点で、小さな犬を連れて太った高齢女性と知り合いらしき若いスマートな女性が立ち話。年配の女性が大きな声で「おかしい、おかしいって」「薬飲んだり、下痢して」「おかしい、おかしいって言って」と「おかしい」を連発して話しは先に進まない様子。若い方が頷きながらやっと聞き取れない声で「それで…?」「おかしいからって、病院行ったら、MRIとスキャナで6枚写真と撮られて」さらに「おかしい、おかしいって言ってたのよ」。小さな声で「どうだったんですか?」

大きな声が「末期がんの肝臓がん…。横を通り過ぎながら二人の女性の立ち話を何気なく耳に入るままに聞いて歩いていたが、深刻な話の結末に驚いた。話の内容で興奮していて大きな声になっていたに違いない。他人事とは限らない。

2011/12/

70代前後の女性が犬と散歩をしている。そのすぐ後を80代前後のだらっと少ない髪を長くたらし、つぶれた毛糸の薄茶色の帽子をかぶり、両手に布の袋とビニール袋をだらっと下げ、長いスカートを引きずるようにして歩く女性の後に60代の私がウォーキング中。80代の女性が突然犬に、「かわいこち

ゃーん！」と呼びかける。犬はさっと振り返ってその女性に尻尾をふって戻り寄ってくる。(えっ?かわいい子って名前の犬?)

人生の先輩女性の会話を通り過ぎながら聞く。80代の女性は声が大きく、女性たちが別れるまで聞こえる。

80「まあ、お利口な犬ね、しつけがいいのねー。可愛がっているんでしょう？」

70「ええ、犬が大好きなので、この犬は人懐こくて」

80「しつけがいいからよ。犬の好きな人に悪い人はいないわよねー。いいママで良かったねー(と犬に話しかける)。なんてお名前？」ふたりを通り過ぎてから70の人の声は聞こえない

80「あら、リリーちゃんっていうの、きれいなお名前ねー」(たしかにゆりの花はきれいだけど、犬にきれいとはめるのははじめて聞いた)。

80「りりーちゃんは血統書のあるいい犬なんでしょ?しつけがいいもの」

70「…」と小さい声

80「シェトランド!やっぱりねーちがいますよねー」


70「…」別れの挨拶のよう。

80「ごめんください」

犬に限らず人なつこい人もいるものだ。

2012/01/13

後ろにリボンのついた紺のハットと紺の制服を着た幼稚園生の女の子と前に2, 3歳の男の子を乗せた自転車とすれ違う。女の子が聞いたらしくお母さんが、「あれはね。椰子の木というのよ」と答えて走り去った。左側の道路に面して寺院の敷地内にある墓地を囲む塀の内側に6, 7本の南国風の植物が塀の高さを超えて植わっている。「あーこの木のこと、いや、椰子の木ではない…」我が家にも一本高く育った同じ木がある。以前植木職人さんに、観音竹と間違った名前を言って、正しい名前を教わったことがある。「えーと、なんていったっけ…」思い出せない。歩きながら「あいうえお」順に思い出そうとする。出てこない。「どっちみち人が付けた名前で、もとはこういう形の植物なだけ」と勝手な考えが湧いて思い出す作業をストップさせようとする。濁音で思い出してみると「芭蕉」が浮かぶがどうも正解ではない。広辞苑とインターネットに頼るしかないなとともかく歩く。今のなすべきことはウォーキング。家に戻って調べてみると唐棕櫚という名前だった。ものの名前をはっきり知ると心で納得して満足するのは年取った証拠かもしれない。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)